

シャープが電子ペーパーディスプレイ カラーモデル2機種を発売へ

消費電力ゼロで映像表示保持

シャープは、消費電力がゼロで映像表示保持が可能な電子ペーパーディスプレイ「ePoster」のカラーモデルを9月下旬から順次発売する。25・3型「EPC251」と13・3型「EPC131」の2機種をラインアップした。オープン価格だが市場想定価格は、25・3型が37万円前後(税抜き)、13・3型が24万円前後(同)。



カラー電子ペーパーディスプレイ (4月のシャープ内覧会で撮影)。当時は参考展示だったが、今回商品化された

電力を必要とするのは、表示を書き換えるときのみに、一度表示すれば電力が加わり、利用シーンが大きく広がる。

薄型・軽量なので、ワイヤーによるつり下げなどで手軽に設置が可能。それにより、これまで電源供給や耐荷重などの課題からデジタルサイネージの設置が難しかった場所や紙のポスターの置き換えとしても需要が期待できる。商業施設・店舗での案内板や広告表示、飲食店におけるメニュー表示などの用途を推定しているという。

彩の国東大宮メディカルセンター 大型液晶マルチビジョン クラウド型システム採用



大型マルチビジョン「彩ビジョン」

4面(8面)による大型デジタルサイネージ(サイネージ)「彩ビジョン」を2面の液晶ディスプレイを設置。テレビは文字放送受信で音声が出ない仕様となっており、病院の待合室などの静かな環境でもテレビ放送を楽しむことができる。

クラウド型サイネージシステム「サイバースイネージ(CYBER SIGNAGE)」を利用してシステムを構築した。メインの大型マルチビジョンのほか、各外来診療科

移動しやすさやトランジスタの低いリーク電流によって、より小さいトランジスタで同じ電流量を供給できる。それにより、ディスプレイとして、電子ペーパー向けの商用化に向けて取り組んでおり、昨秋の「CEAT EC2022」では、この次世代電子ペーパーを

インタラクティブプレイヤー 投映機、PCなど一体化

ウィーナスレーザが発売

ウィーナスレーザ(東京都台東区)は、プロジェクターとセンサー類を一体化した「インタラクティブプレイヤー」を発売した。同社の奥平賢浩社長は「歩くような動きが広がった」と話している。



インタラクティブプレイヤー

Wienna Laser(東京都台東区)は、プロジェクターとセンサー類を一体化した「インタラクティブプレイヤー」を発売した。同社の奥平賢浩社長は「歩くような動きが広がった」と話している。

り、人の動きに合わせて花びらが舞ったりするといったインタラクティブな演出を実現している。奥平社長は「プロジェクターの防水設備やコンテンツ制作費用、現地の調整費用などのコストと比較すると5分の1程度で導入が可能だ」と強調している。

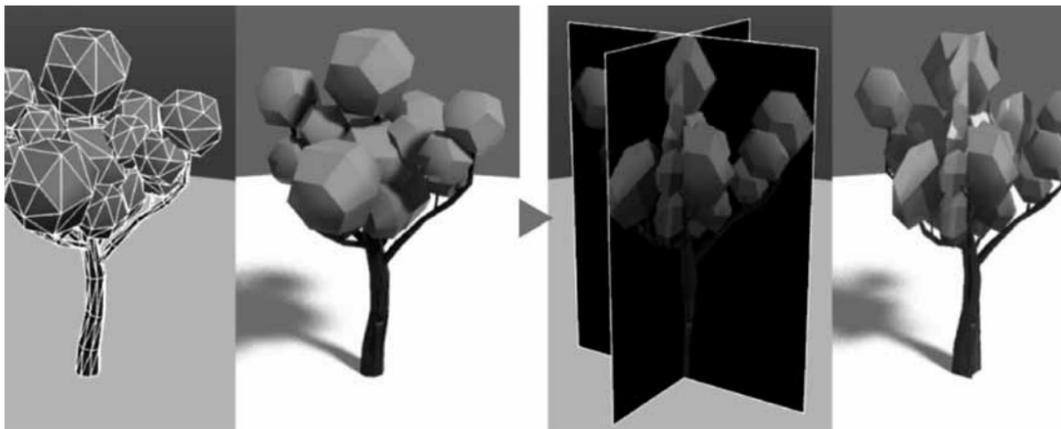


イオンタウン吉川美南 オープンスペースの4面LED柱巻き型デジタルサイネージ

イオン運営の大型商業施設「イオンタウン吉川美南」(埼玉県吉川市)の第3期増床棟は、2021年6月12日に開業し、ファッション、物販、飲食店、サービス店などに加えて温泉施設や自動車のショールーム、イベントスペースなども備えており、新規顧客の獲得にも貢献している。

イオンタウン吉川美南で稼働 4面LED柱巻き型の デジタルサイネージ

イオンタウンを訪れた人に各種情報を提供している。駅などに多く設置されている柱巻き型であるが、それらは液晶方式が大半で、LED方式ディスプレイが利用されるのはレアケースである。近年は堅牢性が高いCOB(チップオンボード)方式のLEDディスプレイの技術が進展し、ここでは、同方式の高精細LED(レッドマン製)が利用されている。



「Shade3D Ver.24」のボックスモデル変換ツールでは近景用のハイポリゴンモデルから遠景用のビルボードやボックスのモデルを生成し、メタバース向けの軽量モデルに手早く対応できる

「老舗の国産3DCGソフトで多くのユーザーに支持されているShade3Dは、現在では当社の傘下で、当社の主力部門の一つとなっている。今回メタバース機能を強化したことにより、さらなるシェアアップを期待したい」と語っている。

最新版(Ver.24)では、メタバース対応を強化し、アバターキャラクター作成用「ヒューマノイドボーン」、軽量モデルを効率的に作成できる「ボックスモデル変換ツール」など、モデリングツールとして役立つ機能を多数追加すると同時に、レンダリング速度や表現力も大幅に向上した。また、フォーラムエイト製の3DVRソフトUC-win/Roadとの連携によるデジタルツイン環境構築で、より便利に活用できる。

フォーラムエイト(東京都港区)は、統合型3DCGソフト「Shade3D Ver.24」を7月31日にリリースした。Shade3Dは、国内各外資系企業、プロダクション、映像制作など幅広い用途で活用されている。2020年には「産業用VR/CGソフト国内市場シェア調査」(富士キメラ総研)において、「国産3DCGソフトウェア企業」でトップとなっている。

フォーラムエイトが最新版 統合型3DCGソフト メタバース対応を強化

イネーシでも今回のカラー製品により市場拡大が期待できるが、さらに「通常の電子ペーパーサイネージの登場が視野に入る」と述べている。